

平成30年度
自己評価結果公開資料

学校法人ティビィシィ学院
国際ファッションビューティ専門学校

2019年3月

1. 学校の教育目標

本校は、次の教育理念のもと教育の質の向上ならびに教育環境の充実に努めてまいりました。

1) スペシャリストの育成

現代社会、特に地元産業の求める人材の輩出を目的に、実社会の要請に合わせて、卒業後すぐに役立つ資格、能力、知識を備えた「スペシャリスト」を育成する

2) 自ら学ぶことを大切にす教育

教育効果を最大にするための基本は、学生の教職員に対する信頼関係の確立にある。そのために、教職員が模範を示し自ら学ぶことができる学生を育成する。

3) 豊かな人間性の形成

資格、技能を持つと同時に、社会的常識とマナーを備え、明るく健康で建設的な意思を持って行動できる人材を育成する。

4) 国際人の育成

「国際」を校名に冠する学校の学生である自覚を持たせる教育により、国際社会に通用する人間性と感覚を育成する。

2. 重点的目標と取り組み

次の点に重きを置き学校を運営していく。

1) 教育内容の充実

- ・企業等と連携した経験的、体験的、実践的学習の展開
- ・専門力とともに人間力を高める教育の充実
- ・思考力、判断力、コミュニケーション能力を高める教育の充実

2) 学生・保護者の満足度向上

- ・学生・保護者・学校の情報共有と連携
- ・三者面談（学生・保護者・教員）の有効活用
- ・多面的本校理解の推進

3) 高い就職率

- ・在り方生き方の就職指導の充実（自己理解と自己表現）
- ・「就職実務」の指導内容の充実と方法の改善
- ・就職につながる企業実習等の重視

4) 高い検定取得率

- ・取得検定の精選と高度化
- ・就職指導に関連づけた検定対策
- ・検定関係授業の充実と指導方法の改善

5) 安定した入学者数の確保

- ・魅力ある教育内容の充実と学校作り
- ・入学関係者のニーズに即した広報活動と対応

6) 退学者の防止

- ・学習、生活、就職活動等におけるきめ細かい学校支援
- ・あらゆる教育場面を通しての、学生理解と速やかな対応

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目		評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>学校理念・人材育成像等は、学生に対し「学生の手引き」や一泊二日の新入生オリエンテーションにて周知している。保護者への周知については、定期的を実施している三者面談時に学生の学習状況や生活状況等の報告に加え、各学科の目標などについて話しをし、理解を得ている。</p> <p>また、各学科の教育目標や人材育成像に関しては、就職先・実習先企業等の業界関係者、本校の非常勤講師の意見を参考に、校内の学習指導部にて協議し、カリキュラム等の編成に反映させている。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>今後も社会のニーズ、業界のニーズの把握に努め、それらを柔軟に取り入れていく。</p>		

(2) 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目		評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>毎年度初めに教務部、事務局でそれぞれ事業計画を策定し運営している。また、運営組織についても有効に機能しており、規則等の整備もできている。</p> <p>教育活動等の情報公開については、ホームページやSNS等を活用しリアルタイムに情報発信する他、チラシ等を作成し関係者に配布し公表している。</p> <p>業務の効率化について、校内ネットワークを完備し情報の一元化や共有化等に対応している。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>ホームページやSNSで情報を発信することが多くなってきているため、今後も継続的に教職員に対し情報モラルの徹底を図っていく。</p>		

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実践されているか	4
5	関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>教育目的に沿って教育課程を体系的に編成している。カリキュラムについては、学習指導部を結成し、関連分野の企業等の意見を取り入れながら、組織的に多人数で多方面から検証している。また、全学科で全教科シラバスを作成し学生に配布することで指導内容・計画を周知している。</p> <p>授業評価については、全学生対象に全教科の授業評価アンケートを実施し、結果を教科担当に伝え、授業運営の参考・改善に活用している。また、教員の資質向上を目的に、計画的に専門分野や指導力を強化する教員研修を計画的に実施している。</p> <p>企業等との連携による実習・演習については全学科で実施している。</p> <p>教職員に対し定期的に相互に授業見学をさせ、授業の運営方法について見直しを行っている。</p> <p>ブライダルスペシャリスト学科については、国家検定の取得も目指し、学習に取り組んでいる。</p> <p>トータルビューティ学科については、認定協会の定めるカリキュラムに沿って行っている。</p> <p>メイク・ネイル学科についても、関係協会で定められている実技と理論の時間数をクリアしている。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>トータルビューティ学科ではインターンシップの内容が充実していないため、それに代わるスクールサロンを実施しているが、今後は、協会のイベント等にも積極的に参加することを検討していく。</p>		

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目		評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>各学科少人数制・担任制を設けることで、きめ細かい指導を心掛け実践している。また、就職・学習・生活の3つの指導部を設け、定期的に委員会を開催し、意思の疎通を図っている。就職については、学院主催の合同説明会に年1回参加、また、企業に来校いただき、説明会を実施し、就職内定率の向上につなげている。</p> <p>資格取得率に関しては、資格取得に向けた対策補講等を実施。その結果、前年度に比べ、取得率が向上しており、100%取得した資格も多数ある。</p> <p>退学率についてはTBC学院全体で退学防止委員会を定期的に開催し、各校での退学例を挙げ、退学までの経緯を分析し、早期問題解決に取り組んでいるが、今年度は残念ながら退学率の低減が図れなかった。</p> <p>キャリア形成への効果を把握するにあたり、できるかぎり卒業生の就職先へ訪問し状況確認をしている。一部、遠方等の理由で訪問できていない企業もある。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>SNSでの友人関係の悪化が要因で退学するケースが増えてきているため、SNS利用上の注意点などの指導を強化していく。また、保護者と密に連絡をとることにより、早期の問題解決を図り、退学率の低減に努めていきたい。</p>		

(5) 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目		評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>全学科担任制をとっており、学生支援については基本的に担任が対応にあたる。その他学生をあらゆる方面から支援するため、それぞれの支援分野に分け、学習指導部・生活指導部・就職指導部が組織的に対応している。</p> <p>学生への経済的支援として、学生の実情に応じ奨学生制度や学費分割制度など取り入れ、学生の経済的負担の軽減をおこなっている。また、就職の際に必要な自動車運転免許の取得について、安価で取得できる合宿免許の斡旋を行っている。</p> <p>健康管理として年度初めに全学生対象に健康診断を実施している。また日常的な体調不良者対応については、常備薬を用意し、体調不良者を休ませる保健室を完備している。</p> <p>卒業生への支援として、就職面では転職に関する相談や斡旋を行っている。また、資格・検定取得や技術向上のための勉強会や講習会等の開催を告知し、参加希望者の受け入れを行っている。</p> <p>高校等へのキャリア教育については、高校へ出向いて模擬授業や面接指導等を実施している。また、高校生のインターンシップ生の受け入れを行っている。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>卒業生への支援として再就職の相談・斡旋の他、イベントや研修・講習の実施の際に、卒業生へホームページや、SNSにて告知しているが、周知徹底がされていないため、卒業生の目に触れる工夫をしていく。</p>		

(6) 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目		評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>教育や学校生活に必要な施設・設備は十分に整備されている。さらに保守管理についても適宜速やかに対応している。</p> <p>インターンシップについては全学科授業で取り入れ、全学生対象に実施している。また、2年次に海外研修旅行を実施し、国際的視野を広めることその他、さまざまな動物関連施設の見学をすることで、国による動物に対する考え方や飼育法の差異を実感する機会を設けている。</p> <p>防災については、避難マニュアルを作成し、4月に全校生で避難訓練を実施している。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>施設・設備については不足しているものを今後も計画的に補充・整備していく。</p>		

(7) 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目		評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>学生募集については設置学科や募集要項、パンフレットなど学習内容や広告媒体の詳細なところまで会議を開いて決定している。また、オープンキャンパスや会場ガイダンス、高校への訪問においては、就職や資格取得、授業内容など実績を正確に伝えている。</p> <p>学納金は、教育内容に沿った設備や人件費、諸経費等を考慮し算出している。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>特になし。</p>		

(8) 財務

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

評価項目		評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>財務については、設立から収入超過のため大きな問題はない。また、予算については在籍数から収入が算出されるため、学校の規模にそぐわない大きな投資をすることもなく健全に計画されている。</p> <p>財務情報はホームページにて公開している。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>特になし。</p>		

(9) 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
<p>(評価の根拠)</p> <p>法令や専修学校設置基準等の改正等に沿って学校運営している。また個人情報についても細心の注意を払っている。</p> <p>自己評価については、組織化して実施してきた。また、その中で出た問題点については改善に向けて対応している。結果の公開もホームページ上で実施している。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>特になし。</p>		

(10) 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2
<p>(評価の根拠)</p> <p>学校祭では地域住民の方をはじめ、一般の方や関係企業の方を招いて学校を開放し実施している。また、学生によるエステサロン、ネイルサロン等を実施している</p> <p>高校生や中学生を対象とした職場体験や研究授業等を依頼があれば積極的に受け入れている。</p> <p>学生のボランティアに関しては、学校近隣の清掃活動をはじめ、企業と連携し、ララスクエアファッションショーや花と緑のフェスティバルなどへ参加している。</p> <p>(今後の改善方策)</p> <p>地域に対する公開講座・訓練講座について、依頼があれば、積極的実施していく。また、公開講座については、卒業生への講座も含めて検討していく。</p> <p>ボランティアについては今後も積極的に奨励していく。</p>		

学校関係者評価結果公開資料

学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時：令和元年8月6日(火) 13:30～14:15
2. 開催場所：国際ファッションビューティ専門学校 2階メイクスタジオ
3. 出席者：学校関係者評価委員 6名
事務局（学校） 9名
議事録担当 1名

<学校関係者評価委員の名簿>

氏名	所属	種別
野田 兼義	公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 専務理事	企業等委員
館野 あゆみ	アークデザイン事務所 代表	企業等委員
櫻井 唯	Surre beauty マネージャー	企業等委員
大森 仁以奈	Flicka*Nail サロンオーナー	企業等委員
栗原 真奈	ブライダルスペシャリスト学科卒業生	卒業生
田中 久美子	雅の会	P T A

4. 議事次第

(1) 開会

- ・学校長挨拶
- ・委員紹介

(2) 協議

- ・学校概要説明
- ・平成30年度学校(自己)評価報告
- ・協議

(3) 閉会

- ・謝辞(学校長)
- ・事務連絡

5. 指摘事項・意見等

委員の方全員に対し学校関係者評価委員会の目的や規定について説明し、ご理解をいただいた。
また、平成30年度自己点検結果について項目ごとに評価の根拠と改善内容を報告し、各委員の方からご指摘・ご意見を頂いた。

各委員の方からのご指摘・ご意見は次の通り。

(1) 教育理念・目標

○ 事務局

(評価の根拠)

学校理念・人材育成等は、学生に対し「学生の手引き」や一泊二日の新入生オリエンテーションにて周知している。保護者への周知については、定期的実施している三者面談時に学生の学習状況や生活状況等の報告に加え、各学科の目標などについて話しをし、理解を得ている。

また、各学科の教育目標や人材育成像に関しては、就職先・実習先企業等の業界関係者、本校の非常勤講師の意見を参考に、校内の学習指導部にて協議し、カリキュラム等の編成に反映させている。

(改善方策)

今後も社会のニーズ、業界のニーズの把握に努め、それらを柔軟に取り入れていく。

<質問ご意見等>

特になし

(2) 学校運営

○ 事務局

(評価の根拠)

毎年度初めに教務部、事務局でそれぞれ事業計画を策定し運営している。また、運営組織についても有効に機能しており、規則等の整備もできている。

教育活動等の情報公開については、ホームページやSNS等を活用しリアルタイムに情報発信する他、チラシ等を作成し関係者に配布し公表している。

業務の効率化について、校内ネットワークを完備し情報の一元化や共有化等に対応している。

(改善方策)

ホームページやSNSで情報を発信することが多くなってきているため、今後も継続的に教職員に対し情報モラルの徹底を図っていく。

<質問ご意見等>

特になし

(3) 教育活動

○ 事務局

(評価の根拠)

教育目的に沿って教育課程を体系的に編成している。カリキュラムについては、学習指導部を結成し、関連分野の企業等の意見を取り入れながら、組織的に多人数で多方面から検証している。また、全学科で全教科シラバスを作成し学生に配布することで指導内容・計画を周知している。授業評価については、全学生対象に全教科の授業評価アンケートを実施し、結果を教科担当に伝え、授業運営の参考・改善に活用している。また、教員の資質向上を目的に、計画的に専門分野や指導力を強化する教員研修を計画的に実施している。

企業等との連携による実習・演習については全学科で実施している。

教職員に対し定期的に相互に授業見学をさせ、授業の運営方法について見直しを行っている。

ブライダルスペシャリスト学科については、国家検定の取得も目指し、学習に取り組んでいる。

トータルビューティ学科については、認定協会の定めるカリキュラムに沿って行っている。

メイク・ネイル学科についても、関係協会で定められている実技と理論の時間数をクリアしている。

(改善方策)

トータルビューティ学科ではインターンシップの内容が充実していないため、それに代わるスクールサロンを実施しているが、今後は、協会のイベント等にも積極的に参加することを検討していく。

<質問ご意見等>

特になし

(4) 学修成果

○ 事務局

(評価の根拠)

各学科少人数制・担任制を設けることで、きめ細かい指導を心掛け実践している。また、就職・学習・生活の3つの指導部を設け、定期的に委員会を開催し、意思の疎通を図っている。就職については、学院主催の合同説明会に年1回参加、また、企業に来校いただき、説明会を実施し、就職内定率の向上につなげている。

資格取得率に関しては、資格取得に向けた対策補講等を実施。その結果、前年度に比べ、取得率が向上しており、100%取得した資格も多数ある。

退学率についてはTBC学院全体で退学防止委員会を定期的で開催し、各校での退学例を挙げ、退学までの経緯を分析し、早期問題解決に取り組んでいるが、今年度は残念ながら退学率の低減が図れなかった。

キャリア形成への効果を把握するにあたり、できるかぎり卒業生の就職先へ訪問し状況確認をしている。一部、遠方等の理由で訪問できていない企業もある。

(改善方策)

SNSでの友人関係の悪化が要因で退学するケースが増えてきているため、SNS利用上の注意点などの指導を強化していく。また、保護者と密に連絡をとることにより、早期の問題解決を図り、退学率の低減に努めていきたい。

【質問】 SNSについてどう感じているか。

保護者：SNSについては、高校時代から心配事である。

今後も学校からの指導を続けてほしい。

卒業生：どんな理由であれ、退学者が出るとさみしい。

SNSは便利だが、実際に学校で会って話した方が楽しかった。

業界：ツイッター・ラインは情報共有に必要不可欠。

<質問ご意見等>

特になし

(5) 学生支援

○ 事務局

(評価の根拠)

全学科担任制をとっており、学生支援については基本的に担任が対応にあたる。その他学生をあらゆる方面から支援するため、それぞれの支援分野に分け、学習指導部・生活指導部・就職指導部が組織的に対応している。

学生への経済的支援として、学生の実情に応じ奨学生制度や学費分割制度など取り入れ、学生の経済的負担の軽減をおこなっている。また、就職の際に必要な自動車運転免許の取得について、安価で取得できる合宿免許の斡旋を行っている。

健康管理として年度初めに全学生対象に健康診断を実施している。また日常的な体調不良者対応については、常備薬を用意し、体調不良者を休ませる保健室を完備している。

卒業生への支援として、就職面では転職に関する相談や斡旋を行っている。また、資格・検定取得や技術向上のための勉強会や講習会等の開催を告知し、参加希望者の受け入れを行っている。

高校等へのキャリア教育については、高校へ出向いて模擬授業や面接指導等を実施している。また、高校生のインターンシップ生の受入れを行っている。

(改善方策)

卒業生への支援として再就職の相談・斡旋の他、イベントや研修・講習の実施の際に、卒業生へホームページや、SNSにて告知しているが、周知徹底がされていないため、卒業生の目に触れる工夫をしていく。

<質問ご意見等>

・学生相談に関する体制が整備されていても、退学率の低減にはなかなか結び付かない場合も有ると思う。

・SNSの問題はこの学校だけの問題なのか？

⇒本校に限らず、問題になっている。

全部は把握しきれていないのが現状。問題解決に向け、努力している。

(6) 教育環境

○ 事務局

(評価の根拠)

教育や学校生活に必要な施設・設備は十分に整備されている。さらに保守管理についても適宜速やかに対応している。

インターンシップについては全学科授業で取り入れ、全学生対象に実施している。また、2年次に海外研修旅行を実施し、国際的視野を広めることの他、さまざまな動物関連施設の見学をすることで、国による動物に対する考え方や飼育法の差異を実感する機会を設けている。

防災については、避難マニュアルを作成し、4月に全校生で避難訓練を実施している。

(改善方策)

施設・設備については不足しているものを今後も計画的に補充・整備していく。

<質問ご意見等>

特になし

(7) 学生の受け入れ募集

○ 事務局

(評価の根拠)

学生募集については設置学科や募集要項、パンフレットなど学習内容や広告媒体の詳細なところまで会議を開いて決定している。また、オープンキャンパスや会場ガイダンス、高校への訪問においては、就職や資格取得、授業内容など実績を正確に伝えている。

学納金は、教育内容に沿った設備や人件費、諸経費等を考慮し算出している。

<質問ご意見等>

特になし

(8) 財務

○ 事務局

(評価の根拠)

財務については、設立から収入超過のため大きな問題はない。また、予算については在籍数から収入が算出されるため、学校の規模にそぐわない大きな投資をすることもなく健全に計画されて

いる。

財務情報はホームページにて公開している。

<質問ご意見等>

特になし

(9) 法令等の遵守

○ 事務局

(評価の根拠)

法令や専修学校設置基準等の改正等に沿って学校運営している。また個人情報についても細心の注意を払っている。

自己評価については、組織化して実施してきた。また、その中で出た問題点については改善に向けて対応している。結果の公開もホームページ上で実施している。

<質問ご意見等>

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

○ 事務局

(評価の根拠)

学校祭では地域住民の方をはじめ、一般の方や関係企業の方を招いて学校を開放し実施している。

また、学生によるエステサロン、ネイルサロン等を実施している

高校生や中学生を対象とした職場体験や研究授業等を依頼があれば積極的に受け入れている。

学生のボランティアに関しては、学校近隣の清掃活動をはじめ、企業と連携し、ララスクエアファッションショーや花と緑のフェスティバルなどへ参加している。

<質問ご意見等>

・イベントと絡めて行う。

・卒業生の婚礼をプロデュース

・一般の方を向かい入れての講座は、非常に難しい。理想と結果が結びつかないことが多い。

・社会人1年生・卒業生（地域に該当する）対象の情報提供の場。

地域貢献を踏まえた講座になるのでは。

・『地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか』の評価は2⇒3に値すると思う。

(今後の改善方策)

地域に対する公開講座・訓練講座について、依頼があれば、積極的実施していく。また、公開講座については、卒業生への講座も含めて検討していく。

ボランティアについては今後も積極的に奨励していく。

その他のご意見

卒業生：勤務先にもよるが、仕事が続かず、すぐに退職してしまう者が多い。

学生時代と社会人のギャップが原因と思われる。

知識も重要だが、経験が大切。企業研修の場があると良い。

保護者：職場体験の機会を通し、自信を付けさせてほしい。

業界①：仕事に就くことへの認識が甘い。

インターンシップや企業の方を招き、働くことへの意識を高めるべき。

業界②：ギャップを埋めることにインターンシップは必要。

働くことのイメージを明確にする。

業界③：学生主体で公開講座を行う。

朝活：ネイルサロン・ヘアメイク・ファッションアドバイス等

オーナーと学生が一般の方へ行う。

責任感・感謝の思い・様々な経験を通し、成功体験を得ることが必要。

業界④：早期退職・甘い考え方等、働き方改革が進められている中、

学生の当たり前を否定しては行けない。それが主流になっている。

社会・業界がいかに理解し、改善していくかが問題。

早急に取り組む必要がある。

以 上